

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372900585		
法人名	東海エイド株式会社		
事業所名	グループホームなごみや	2階	
所在地	愛知県刈谷市井ヶ谷町久伝原41		
自己評価作成日	平成30年1月25日	評価結果市町村受理日	平成30年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&UgyosyoCd=2372900585-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成30年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今年度は2件の看取り介護を行った。 職員が落ち着き業務に当たることが出来たのは、主治医や訪問看護ステーション、薬剤師とのれ量連携が十分に図れたためと考える。また、なごみやの10年の積み重ねた経験があったからだと考える。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は開設して13年が経過し、幹線道路から少し入った田畑や住宅が広がる中に位置している。法人の理念「共に歩み、共に生きる」を基に、事業所理念「元気な笑顔で、その人らしく、ふつうに暮らす幸せ」を掲げ、毎朝の申し送り時に唱和し理念を共有して、入居者が「当たり前な生活」が出来るようにいつも笑顔で感謝の気持ちを持ち、入居者それぞれが自分らしさを発揮し安心して過ごせるように、入居者に寄り添った支援に心がけている。年を重ねるごとに地域との繋がりが深まり、地区の敬老会や市民会館での芸能祭、公民館での避難訓練など恒例的な行事となり、楽しみの一つもなっている。音楽やお花のボランティアを受け入れ地域の方との係わりを大切にしている。毎月1回入居者の希望を取り入れた特別メニューの食事づくりを職員と一緒に作り、食事の楽しみに繋げている。入居者はゆったりとしたリビングでソファに腰かけ、新聞を読んだり、テレビを見たり、会話を楽しんだりして穏やかに過ごしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和することで、職員共有に繋がっていると考える。職員全員参加した職業倫理の研修を通して、より周知に繋がったと考える。	玄関に法人の理念「共に歩み、共に生きる」、事業所理念「元気な笑顔で、その人らしく、ふつうに暮らす幸せ」を事務所に掲げて毎朝の申し送り時に唱和し理念を共有している。入居者が「当たり前」の生活が出来るといつも笑顔で感謝の気持ちを持ち、日々のケアの実践につなげている。職員全員が、職業倫理の研修会で学びサービスの向上を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、敬老会や芸能祭、避難訓練などの地域行事に参加している。	町内会に加入し、回覧板や広報誌で地域情報を得ている。毎年、地区の敬老会や市民会館での芸能祭、公民館での避難訓練などに参加して交流を深めている。音楽やお花のボランティアを受け入れ、地域の方との係わりを大切にしている。中学生の職場体験を受け入れ地域に貢献できるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々へ向けて活かしている事は、ほとんど実施できていない。夏祭りなど行事に地域の方へ声かけて関わる機会を保持できるよう努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニット会議時に出た意見を参考に現場に反映している。	入居者家族、民生委員、町内や老人会長、市職員、包括職員、訪問看護師、法人アドバイザーなどの参加を得て年6回実施している。運営状況や行事、ケア状況等の報告や防災訓練の取り組みなどについて情報交換が行われている。提案や意見は記録され、ユニット会議などで協議し運営に活かすようしている。参加できなかった家族への会議内容の周知が十分ではない。	運営推進会議に参加できなかった家族へ、開催案内や議事録などを工夫して送付するなど、より多くの家族が参加し、開かれた交流ができるよう事業所から積極的な発信の機会を作るよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域会議や研修時などの場を活用して施設意向を述べる機会を設けている。	運営推進会議に役場の担当者が参加した折には、情報やアドバイスを得ている。日頃から担当者とは電話や直接出向き、報告や相談、サービスの内容などを伝え、良好な協力関係を深めている。市主催の研修会にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関やエレベーターの施錠は日常行っていない。やむを得ず、施錠した際は記録に残している。拘束にあたる居室窓の開閉制限は家族に同意書を頂いている。毎年、研修を実施しているが、職員の理解に差異が多少見られる。	職員のチームワークに重きを置き、機会あるごとに拘束に対する話し合いを重ね、職員間で認識の共有を図っている。スピーチロックや束縛感のない環境づくりに努めている。日中、玄関やエレベーターは施錠せず、一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしができるような支援を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修を行い、職員の意識啓発を行っている。痛みを訴えることのできない入居者の移乗方法など都度検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、制度を利用している方もいるため、医師への鑑定書作成の依頼や、司法書士との連絡調整の中で学んでいる。制度利用が適切と思われる方へは紹介を行っている。多くの職員が制度について学ぶ機会は保持できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、後日不明な点が出た際は都度対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、地域会議などご家族の来所時に積極的に関わり意見や要望を言いやすい関係作りに努めている。	入居者からは日々の関わりの中で思いを聞き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からは面会時や年2回の家族会などで意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。意見箱の設置をして意見を述べやすい環境を整えたり、なごみや新聞を毎月発行し家族に行事などの様子や安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議など意見の提案をする機会や反映する機会を設け、努めている。個々の職員により話す機会は異なるが、話す機会を設けている。	日々の業務の中や申し送り時、ユニット会議など話しやすい環境を作っている。年2回、目標管理カードを基に自己評価を行っている。管理者と面談する機会を年2回設けている。意見や提案を聞いて、見直しや改善に向けての話し合いを行い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談する機会を設け、個人の現状把握に努めている。業務の環境整備の改善に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談時に希望する研修の確認や本人の力量を考察して、社内研修の講師役を依頼している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会に積極的に参加している。他事業所の記録物を参考にするなど、形式を真似することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期より担当職員、計画作成にてアセスメントを行い要望の確認を行っている。少しでも早く馴染めるよう配慮して、日頃の関わりの中からも本人及びご家族の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にケアマネやメディカルソーシャルワーカーから情報を得ている。面談時にご家族が不安なことや困っていることを伝えやすいよう配慮して望んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスが支援が当ホームで可能な場合、外部協力が必要な場合は早急に依頼している。難しい場合は他施設や病院を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	する側、される側の関係にならないよう個々のできる能力を見極め、日常生活レクなど個々が活躍、能力を発揮できるよう努めている。身体的に重度の方へは一方的な支援になっていることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出や来所時の関わりなど大切に、一緒に過ごす空間の配慮もしている。ご家族との関わりで穏やかに過ごされる方もいるため、ケアプランに担い手として家族を載せている方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族より断りが無い方へは前職場の方や近所の方の面会を行っている。馴染みの方へ年賀状など送ることはあるが、多くの関係継続の支援には至っていない。	入居者のこれまでの生活歴を把握したり、家族から情報を得て、今までしてきた生活が継続できる支援を目指している。携帯電話の利用や勤めていた頃の知人や近所の方の訪問、家族とお墓参りなど人や場所との関係が途切れないよう支援をしている。また、近くの喫茶店や訪問理容師など新しい馴染みの関係作りや継続的な交流ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の座席や外出時など関係性を配慮して、関わりを持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去事由で多いのが入院のため、ご家族から経過報告を頂き、お見舞い時や病院からの情報を得て本人の状態把握をしている。家族との話の中で情報提供できる場合はフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃、本人が訴えたことやモニタリングを通じて意向の把握に努めている。言葉として思いを伝えることができない方には表情や仕草から推測して検討している。	日常の入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを申し送りノートやケアプランに記載し、職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方には、寄り添ってタイミングを見計らって意向を判断したり、家族と情報を共有し一緒に支えていく努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族へセンター方式の様式の一部を渡して暮らしの把握に努めている。また日頃の会話から見える生活歴などふまえ、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や生活歴を下に、アセスメントやモニタリングを行い把握に努めている。本人にとって無理のない生活リズムになるようプランニングに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議時に担当職員がモニタリングを行い、検討した内容をプランに反映している。検討した内容をご家族とカンファレンス時に検討して介護計画を作成している。	担当職員が入居者の意向を聞いたり、日常の様子を記載した個別記録を基に毎月のユニット会議で問題や課題について話し合い情報交換をしている。2か月に1回モニタリング、年1回介護計画の見直しを行っている。医師や訪問看護師などの意見や家族の意向等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録のチェック項目をケアプランの実践状況を把握できる内容にしており、モニタリングの際数字評価できるようにしている。個別ケアを意識して実践に繋げる狙いとしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状特異なニーズは上がっていないが、要望があった際には事情を考察しながら支援できればと考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	車の通りが少ないところを散歩に出掛けたり、近所のスーパーへ買い物に出掛けるなど、楽しみながら外出をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に家族、本人の意向確認をしている。馴染みのある病院を希望する際は、家族協力のもと受診を行っている。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科は月1回、提携医による往診がある。他科は必要があれば職員が付き添い受診することができる。受診後は相談ノートや申し送りで周知し、家族へも報告をしている。身体状況に変化があった時や緊急時は、24時間体制で提携医や協力医療機関による連携体制のもとに、速やかに適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医と同じ病院の訪問看護ステーションと医療連携を行っている。定期的な訪看訪問があり、細かな情報交換や、気づきや相談を行うことで、初期対応をとりやすくなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	見舞い時など本人の経過把握や相談員に情報収集を行い、早期退院に勤めている。入院時にはサマリーを提供して情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階から看取り介護を行う説明を行っている。看取りの診断が出た場合には適宜、家族、主治医、訪問看護や薬剤師とのカンファレンスを行い方針を決めている。	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにしている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を再確認し、医師や訪問看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添う看取りが出来るよう支援をしている。看取りを行った実績があり、職員が看取りに向けてチームで取り組んでいくために勉強会も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年の社内研修として消防署が実施する救命講習に参加して実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の防災訓練を実施している。備蓄品の点検も併せて行っている。地域の避難訓練にも参加を行っているが、より協力体制が築けるよう積極的にしていきたいと考える。	年2回夜間想定を含めた避難誘導訓練と伝達訓練を行っており、消防と連絡を取り、実際にベルを鳴らして駐車場に避難する訓練を実施している。備蓄品は、水や食料の他、毛布やライトなど防災委員が備蓄品のリストを作成し管理している。地域の防災訓練に参加しているが、協力体制までは築かれていない。	消防署・地域消防団への参加要請及び地域協力者への呼びかけも重ね、安全性の高い訓練と想定外の災害に対して地域との協力関係の構築が望まれる。地域との連携の中で、協力をお願いしたり、事業所として出来ることも提示しながら地域相互の関係をより深めていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修としてプライバシー保護の研修を設けている。入居者への言葉かけや対応を再認識する機会として実施している。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、より良く過ごせるよう配慮している。職員は、日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使いなどに配慮し、「いつ誰が聞いても不快にならない言葉使いや対応」をするよう努力しているが全職員の周知には至っていない。プライバシー保護に関する内部研修を行い、知識や技術の向上に努めている。	プライバシー保護の研修では、言葉かけや対応を再認識する機会として実施しているが、頼みすぎて礼を欠く言葉遣いになっていないか、また、入居者の行動に対して容認か放任かの職員の意識的レベルを、理念の「共に歩み、共に生きる」に振り返り、職員全員が安心の持てる援助と支援ができるような取り組みを望みます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に一度入居者と食事メニューを考える機会を実施している。日常生活では飲み物や入浴など自己決定できるよう希望の確認をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立度の高い方へ希望を聞き、支援することもあるが、職員が予定を考え、希望する方が参加して過ごすことが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅から着ていた服を持って来る又、ご家族が衣類を持参されるため、その人らしい身だしなみはできていると考える。職員も同じ服ばかり着続けないよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食材業者委託のため毎日希望に沿った内容とは言えないが、月一度希望にそった食事メニュー考え提供している。食材切りや盛り付けは共に行っているが、片付けは職員が行う事が多い。	食材とメニューは業者委託となっているが、毎月1回入居者の希望を取り入れた特別メニューの食事を提供している。入居者は準備や盛り付けなど職員と一緒にいる。職員も同じテーブルを囲み、見守りと雰囲気作りに努めている。毎月のお楽しみおやつ作りでは、おはぎやケーキを手作りして楽しんでいる。誕生日には職員と一緒に外食することもある。	毎食工夫して食事作りをしているが、特に合同で行うイベント時などは、食事までの時間配分や量など綿密に計画を立て繁雑にならないような工夫が望まれる。また、環境や空間への配慮をし、誰が見ても不快にならない言葉遣いや対応になっていないか職員間で再確認し入居者に寄り添った支援が共有できるよう願いたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を業者へ依頼している為栄養バランスは整っていると考え。食事・水分量をチェック行い、不足しないよう努めている。栄養面で不安な際は定期的に採血検査の実施を依頼している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルあった口腔ケアの実施や声かけを行っている。毎日義歯の消毒を行っている。介助を要する方の口腔状態の把握はできるが、自己にて行っている方の口腔状態の把握があまりできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表の排泄リズムを基にトイレへの声かけや誘導を行い自尿に繋がるよう努めている。パッド類の使用も軽減できるよう検討や調整に努めている。	排泄状況は排泄表で確認し、その人の排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングなどを工夫し適切な支援をしているためトイレに行く感覚がよみがえった方もいる。入居者の多くは、布パンツにパッドを利用するだけで過ごすことができる。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。	扉がなくカーテンで仕切られているトイレでの介助において、半開きが常態化している傾向にある。プライバシーや本人の羞恥心保護の立場からトイレ誘導への職員の意識を再確認していくことを願いたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握に努め、飲食物の工夫や便秘状況に応じ食物繊維の補助食品を用いるなど改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する声かけは職員が中心に行っていることが多い。声かけに対して希望を訴える方へは都度対応している。入浴が好きな方へは希望に添えるよう入浴順や入浴回数など添った支援をしている。	入浴は2日に1回を目途にしている。一人ひとりの希望やその日の予定、状態に合わせて臨機応変に対応している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援している。シャンプーなど個々の好みのものを使用している。同性介助の希望にも配慮している。季節を感じるゆず湯や、しょうぶ湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬場足が冷えて寝れない方には湯たんぽを使用する、エアコンの風向きを調整するなど状況に応じて支援している。浮腫の状況や体調に応じ静養を支援することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による管理指導を受けているため不明な場合は確認できる環境である。副作用などの留意事項を薬剤師から指導頂く機会がある反面、自発的な職員による薬剤の理解向上が劣る面がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書写や歌など行事予定日を貼りだし楽しみのある日々に関わるよう支援している。職員管理ではあるが、玄関先での喫煙や毎晩晩酌を楽しんでいる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日その日希望に沿った戸外外出の実施には至っていない。職員が買い物へ出掛ける時の入居者への外出参加の声かけを行っている。本人の思いにより毎月1回必ず自宅へ仏壇参りに、いっしょに行き下さる家族もいる。	近くの喫茶店やスーパーに買い物に出掛けたり、敷地内にある菜園の水やりなど、入居者のその日の希望にそった支援に努めている。また、本人の希望を把握し家族と協力して誕生日外出や初詣などができるよう努めている。秋の行楽では、聚楽園の大仏や、安城のデンパークなどに買い物や散歩をして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は金銭の自己管理を行い、買い物時に支払いを行っているが、多くの入居者は職員が管理や支払を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をすることはほとんどない。年賀状の送付を希望される方は毎年本人に書いて頂いている。書けない方へは写真付きの年賀状を送り手紙のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が生けた季節の花を玄関や居室に飾ったり、壁面や廊下含め入居者が作った季節を感じる作品を展示している。作った作品を見て入居者同士の会話や季節を感じるきっかけに繋がっている。	玄関のフリースペースにお雛様を飾り、四季の催しを感じられるように工夫をしている。共有スペースに採光が入り明るく、食堂と居間がワンフロアになっており、入居者の動きや気配がよく見渡せる。広い廊下の壁には、季節の行事の作品や写真が飾られている。廊下の一角に四畳半ほどの畳スペースがあり、筆筒が置かれ和の雰囲気が楽しめるようになっている。開放感がある共有スペースでは、テレビを見たりソファコーナーでのんびり過ごしたり、ユニット合同での音楽療法などをして楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々の相互を考慮して食事席を決めている。気の合った入居者同士が畳スペースで過ごしたり、独りで過ごしていることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での使い慣れたタンスや椅子などの家具を持参して、居心地のよい居室になるよう努めている。	居室は、使い慣れた筆筒やテレビ、加湿器など持ち込み、自分の作品や写真や小物を飾るなど、自分らしい落ち着いて安心できるスペースを確保している。入口には、好みの暖簾をかけている入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室に目印を付けるなど、本人にとって分かるよう工夫をしている。居室のベッド位置やポータブルトイレを使用する場合は、ひとりで安全にできるよう設置場所を検討している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372900585		
法人名	東海エイド株式会社		
事業所名	グループホームなごみや	1階	
所在地	愛知県刈谷市井ヶ谷町久伝原41		
自己評価作成日	平成30年1月25日	評価結果市町村受理日	平成30年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&UgyosyoCd=2372900585-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成30年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は2件の看取り介護を行った。
職員が落ち着いた業務に当たることが出来たのは、主治医や訪問看護ステーション、薬剤師とのれ量連携が十分に図れたためと考える。また、なごみやの10年の積み重ねた経験があったからだと考える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設して4年が経過し、田畑や住宅が広がる中に位置し道を挟んで小学校がある。子どもたちの元気な声や躍動感ある姿が見て取れ、入居者の活力ともなっている。複合型サービス、訪問看護ステーション、ケアプランセンターが併設され、2階に2ユニットのホームがある。建物は落ち着いた色彩で統一され、ユニット間のパーティションをたたんで、交流や共同イベントを楽しんでいる。「これまでの人生や思いを大切に、役割を持って生活をしていく、家族とや地域社会とのつながりを大切に、医療と連携し安心できる暮らし」を基本に、職員は入居者それぞれが自分らしさを発揮し安心して楽しく過ごせるように、入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。小学校で開催される夏祭りでは、伝統の手筒花火を見物したり盆踊りをして地域の方々との触れ合いを楽しんでいる。週2回入居者の希望を取り入れた献立を考え、買い物に行ったり調理をするなどの、「手作りの食事」は楽しみの一つとなっている。入居者はゆったりとしたリビングで編み物などの趣味に取り組んだり、ソファに腰かけ会話を楽しんだりして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有はできている。実践についてもある程度実現できている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物に参加する機会も年に数回あるが、充分なつながりは作れていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	十分な地域貢献はできていないのが現状だが、相談があれば支援していけるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域会議ではなごみやの現状を報告している。また、地域の方や家族様に意見を頂けたときは出来る範囲で行うように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回介護相談員に来て頂き最近の出来事を伝え、入居者の意見等を支援して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての意識はもつことで、できていると感じるが、まだ改善できる部分はあるように思う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などでも議題に上げ、注意を払って防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、十分に学ぶ機会を作ることはできていない。関係者との話し合いもできていないので、まずは学ぶ機会から作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解していただけるよう時間をとって丁寧に説明することを心がけている。質問もいつでも受け付けられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的に行う等しているが、家族からの意見は吸い上げきれていない面はある。入居者の意見は出来るだけ反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見を伝えやすい環境にあり、反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に合わせて見直しを行っている。また、年に2回職員面談を行い、環境の整備を行っていると感じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	十分な取り組みはできていないが、職員の実情を見ながら研修参加を勧めたり、内部研修にも工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、十分な取り組みはできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意識して声かけや会話の機会を作り、より良い関係を築けている。意思疎通の難しい方も表情や行動を観察しながら対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも情報の共有をする中で要望等を受けているが、十分な関係作りができていない家族もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報とも照らし合わせながら、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯等、できることは一緒に行い、支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	概ね家族とは良い関係を築けているように感じているが、中には十分な関係を作れていない家族もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	十分に支援できているとは言えないが、年賀状を出したり、希望に沿った対応、支援はしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中で、気の合う利用者が一緒に過ごせる時間を作っていくようにしている。冗談を言ったり、励ましあったりしている姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応しているが、亡くなられた過去の入居者の家族が今も時々来所されるなど良い関係を築けているケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と関わる中で、希望や意向を把握できるよう意識している。会議でも情報を共有し支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	十分にできているとは言えないが、個人記録等を確認しながら対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段からの生活の様子を観察し、気を付けている。モニタリングも2ヶ月に1度行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でも話し合いながら担当職員、計画作成職員が意見を出し合い反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を元に職員間で情報を共有し、会議等で話し合っケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応することは難しい面もあるが、新たなニーズにも施設で可能な限り支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事やその他の催し物を行う際に近隣の公共施設等を利用したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回医師の往診を受けているほか、希望をする方には家族に付き添ってもらいながら他の病院への受診をおこなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その時その時に気がついたことを訪問看護師と相談しながら情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を常に行いながら、スムーズに入退院に対応できるよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を確認して、重度化した場合や終末期の対応を整えている。看取り介護を行い、ご家族から感謝の言葉を頂いたこともある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2～3年おきに普通救命講習を受けている。他、1年に2回避難訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回災害時の避難訓練や連絡網の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには注意をしているが、それでも時に不適切な物言いになっていることもある。今後は職員間で注意、研修を行い改善に努める。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、自己決定してもらえようになりたいと考えている。職員間で話し合って改善できるよう努めたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先しているが、充分とは言えない部分もある。職員間で話し合って改善できるよう努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と相談したり、希望に添えるようにしているが、整髪、爪切り、ひげそり等改善すべき点もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備を手伝って頂いたり、盛り付けや声かけに工夫しながら出来る範囲で食事を楽しめるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分の摂取量に注意し、職員間で話し合いながら対応、支援している。それでも十分に水分が摂って頂けないケースもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけ及び介助を行っている。口腔の状況に合わせたケアを行い、義歯の消毒も毎日している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の状態に合わせながら、出来るだけトイレでの排泄を行ってもらえるよう声かけや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をとってもらえるように時間を作っている。医師や看護師や薬剤師に相談しながら対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状入居者の希望に添った対応ができていない時もあるが、入居者の希望の時間を確認して可能な範囲で支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調や様子も見ながら、静養や早めの就寝等の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報を交換、共有しながら薬剤師に相談し、医師の指導のもと対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分に支援できているとは言えないが、生活歴を活用しながら入居者の好みや楽しみを知る事で支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援はできていないが、外気温の落ち着いたときに散歩に出かけたり、行事の際に様々な外出支援を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は利用者本人の管理は難しいと思われ、家族から預かったお金を施設側で管理しつつ、買い物の支援を行うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には電話の取次ぎを支援している。手紙については、希望者に年賀状を書いてもらっている程度。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入替えを行ったり、毎月、季節感が出るような掲示物を壁に飾りつけたりしながら工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係を考慮しながら、食事の席やソファで座る席を用意し、自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただいたり、本人の希望を取り入れながら家具を配置するなどして対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の希望を取り入れながら、残存機能を活かした環境づくりに心がけている。		